

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

カリタス石巻ベース長として多忙な支援活動が続けている中村愛さんは、毎年、石巻から岩手県北の宮古まで巡礼に似た被災地視察をなさっています。今回は、石巻ベースのスタッフ全員と共に、例年の被災地巡礼視察をなさいました。その視察記をご紹介します。さらに、カリタス釜石で行われ、好評を博した曹洞宗とカトリックとのコラボレーション「味来食堂～座禅と精進料理」の様子をお知らせいたします。また、カリタスジャパンが、岩手県岩泉町の台風水害被災者へ、暖房器具を支援したご報告と、11月22日に発生した地震と津波警報発令に伴う各ベースの対応などについてお知らせしております。今後とも皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

被災地視察 ー石巻から宮古まで、車でひた走るー

カリタス石巻ベース 中村 愛

2014年よりスタッフとして活動している私は、毎年一回は、宮城県石巻市から岩手県宮古市まで、約200kmを車で走って被災地を見てきた。初めて行った時は、今の風景を忘れないでいたい思いでひたすら車を走らせ、それぞれの場所を脳裏に焼き付けた。今になって、写真を撮っておけばと反省。記憶は薄れていくと最近つくづく思う。回数を重ねるごとに、変わっていく風景を見守りたい思いで継続しているが、今年は、石巻ベーススタッフ4名で行く機会をいただいた。

11月6日、国道45号線を北へ車を走らせる。石巻市から南三陸町、気仙沼市を通り過ぎて、岩手県に入る。陸前高田市、大船渡市。途中、三陸道が開通している所は、三陸道を利用してひたすら車を走らせる。この日は日曜日だったので、途中、カトリック大船渡教会で主日のミサに参加。その後も宮古市を目指して、釜石市、大槌町、山田町を走り抜ける。南三陸町、陸前高田市、山田町など、ハード面の復興が進んでいた。特に、新しい堤防が完成あるいは建設中の所や、復興公営住宅が新しく立っている所、被災した物が撤去されて、次の作業に移っているなど、前に進んでいる印象を感じた。

宮古市に到着したのは、13時過ぎ。一番北になる目的地「たろう観光ホテル」へと更に車を走らせる。この場所を知ったのは、2015年10月頃に掲載された新聞の記事。震災遺構として整備されていることを知り、ボランティアと一緒に行って見たが、整備途中だったため、中には入れなかった。それから1年経ち、再び行って見たものの、担当の所に連絡することを知らず、結局、建物の中を見学することはできなかった。建物の周りにはフェンスが立ててあり、そこから建物の柱だけが残っている1、2階部分を見てみたが、自然の恐ろしさを感じるひと時だった。

次に、「東日本大震災メモリアルパーク中の浜」に移動。この場所を知ったのも新聞記事。元々キャンプ場だった場所も、東日本大震災で被災。その後、整備され、綺麗な公園になっている。芝生の所で地元の方がゴルフの練習をしたり、犬を連れて散歩している方もいた。その一方で、被災した建物が2つと震災にまつわる資料もあり、震災伝承の機能も兼ね備えている。忘れてはいけない出来事ではありつつ、人々の憩いの場所になっている感じがした。

石巻市でも大川小学校や門脇小学校の一部が震災遺構として残ることが決まっている。この2つの建物の周りも、公園になると聞いているが、このような場所になってくれたらと心から思った。

その後、メモリアルパークを出発して石巻市まで戻る。再び海岸沿いを走って帰った。初めて行ったスタッフは、被災地の復興を目の当たりにし、参加できたことを喜んでいて。他のスタッフは、復興が進み、景色が変化していることに驚いていた。

被災した建物や道路が取り除かれた所、嵩上げが進んでいる所、堤防が完成した所、集団移転地に家が建っている所、橋が架かった所、被災した場所にビニールハウスが出来上がっていた所、一つ一つあげるときりが無い程、変化してきていた。工事のスピードは様々であるが、確実に前に進んでいる。今まで、変わっていく被災地を、オープンスペースの利用者や仮設の方々と見守ってきた。また一歩と進んでいく被災地を共に見守り続けたいと願う。



「東日本大震災メモリアルパーク中の浜」公園中心部の展示広場
津波の脅威や、これまでの復興に向けての歩みなどが紹介されている。

曹洞宗「味来食堂」 座禅と精進料理

カリタス釜石 高野 桂子

10月24日月曜日、清々しい秋晴れの中、カリタス釜石・カトリック釜石教会聖堂において、全国曹洞宗青年会様主催「味来食堂in釜石～座禅と僧食を学ぼう～」が開催されました。聖堂を座禅会場としたカトリックと曹洞宗、異宗教のコラボレーション。宗教の壁を超えた素晴らしい時間を皆さんと共有することができました。

10時からの座禅会場には、釜石教会聖堂をお借りしました。正面のキリスト像を一直線に仰ぎ見ることが出来るように、坐布と足を組むのが難しい方も座ることが出来るように椅子を並べ準備終了。

凜とした空気の中、お鈴の音が渡り、和尚さんに座禅の意味、座禅の作法や足の組み方・手の組み方・姿勢の整え方・息の整え方を丁寧に教えていただきました。



震災遺構「たろう観光ホテル」外観
(岩手県宮古市田老町)



座禅会場となった釜石教会の聖堂

座禅により姿勢・呼吸を整えると、良い気が体の中に呼び込められ、ストレス社会を生き抜く力を得られるそうです。終了後は皆さんスッキリとしたとても良い表情になっていらっしゃいました。

11時からの精進料理教室は、場所をカリタス釜石の厨房へ移し、行われました。メニューは、①車麩の甘辛揚げ焼き②蓮根と食用菊の酢の物③ゴマ豆腐④きのこ汁⑤ごはん⑥漬物という、一汁三菜。参加された皆さんは、初めての精進料理の調理方法や食材について、熱心に典座さん（食を司る役僧）へ質問をされていました。出来上がった料理をそれぞれ大きさの異なる器へ盛り付け、いざ試食へ。期待で胸はふくらみ、そして、お腹はペコペコに。

多目的ホールに移り、緊張感が漂う中、「五観の偈」を唱え、全てのものに感謝していただきました。

- 一 功の多少を計り彼の来処を量る。
- 二 己が徳行の全欠を【と】付って供に応ず。
- 三 心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす。
- 四 正に良薬を事とすることは形枯を療ぜんが為なり。
- 五 成道の為の故に今この食を受く。

ここでも食事をいただく際の所作一つ一つに意味があります。そして、してはならないことがあり、例えば手に取った箸先を人に向けてはいけない、食べる時は器を手に取り、同じ場所に戻さなければならない、音を立ててはいけない等々。一番むずかしいと思ったのは、食事中におしゃべりをしてはいけない…。つついお隣の方に「美味しいですね！」と話しかけてしまいます。

最後は食べ残しがないように、器をキレイにお漬物で拭い、ごちそうさま。シンプルなのに健康的でとても美味しいお料理でした。



きれいに盛り付けられた精進料理と、黙々と少し緊張の面持ちで食する参加者の皆さん



皆さんちょっぴり緊張されていましたが、座禅・精進料理体験に大満足の様子でした。そしてこの体験で、日常当たり前の様にいただいている食事が、とても尊いものなのだと改めて気付かされました。感謝の気持ちをもつことって大切ですね。

この機会を作ってくださった全国曹洞宗青年会の皆様、ありがとうございました。

岩手県岩泉町 台風水害被災者への暖房器具支援

11月中旬、札幌カリタス宮古ベースの仲介により、カリタスジャパンから岩泉町へ暖房器具の支援が行われました。

きっかけは、岩泉町へボランティアに行っている方から、宮古ベースにカリタスへの支援要請の相談があったことでした。この方は、5年前の大津波で被災され、仮設住まいでしたが、カリタス宮古ベースの活動当初からカリタスの趣旨に賛同され、現地活動での協力者となっている方です。

相談を受けた宮古ベース世話人が、岩泉町の町や社協と連絡を取り、実情を調べ、札幌サポートセンターが推薦人となって、岩泉町がカリタスジャパンに援助申請を行いました。

カリタスジャパンは、11月16日に申請を承認し、後日、決定通知書と暖房器具の援助金(小型ポータブル灯油ストーブ暖房器 260台分相当)が、岩泉町に届けられました。

宮古ベース世話人の方が、11月21日、岩泉町社協を訪問し、会長と面談したところ、当初、他の団体から暖房器具 50 台の寄付を受けたが、台数がとても足りず、どう配分したらよいか悩んでいたため、カリタスジャパンからの支援によって、大分楽になったと謝意が述べられたということです。

(～札幌カリタス宮古ベース活動報告より～)

《岩泉町災害 VC ボランティア受け入れ一時休止について》

『岩泉町災害ボランティアセンター』では、緊急性の高い活動について見通しがついたことから、11月27日をもって、ボランティアの受け入れを一時休止することになりました。今後の活動は、災害ボランティアセンターが生活支援などを中心に活動を継続し、協力が必要となる場合には、不定期にボランティアを募集するということです。詳しくは岩泉町災害ボランティアセンター（岩泉町社会福祉協議会）の Facebook ページやホームページをご覧ください。よろしく願いいたします。

11月22日(火) 震度5弱の地震発生・津波警報発令

11月22日(火)5時59分、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4(当初発表値は7.3)、の地震が発生しました。震源の深さは25km、福島県・茨城県・栃木県にて、最大震度5弱が観測されました。この地震に伴い、午前6時2分、福島県の沿岸部に津波警報、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、茨城県、千葉県九十九里・外房には、津波注意報が発令されました。(※津波警報の発令は、2012年12月7日に宮城県の沿岸に発表されて以来のこと。)

各カリタスベースにおいては、津波注意報や避難勧告などにより、活動が中止となったり、大船渡ベース及び石巻ベースが、最寄りのカトリック教会へ一時避難するなどの影響がありましたが、特に被害等はありませんでした。

気象庁は、当初、福島県にのみ津波警報を出していましたが、宮城県仙台市の仙台港で、午前8時3分、1.4mの津波を観測したことにより、午前8時9分、宮城県に発令していた津波注意報を津波警報に切り替えたと発表しました。今回、気象庁が観測した最も高い津波の高さは、この仙台港で観測された1.4mの津波です。

後日、現地調査を行った専門家によると、宮城県東松島市の大浜漁港では、波が陸側にかけ上がり、岸壁からおよそ60m陸側に入った坂の路面が濡れていたことから、本来の海面から2m以上の高さまで津波が達したと見られることがわかり、コンピューターでシミュレーションした結果、海面が2.5mの高さに盛り上がった場所もあったということです。

専門家は「津波は局所的に高くなることもあり、住民は、気象庁の予想の高さ以上の津波が来ることを念頭に、早めに避難することが大切だ」としています。今回、気象庁の発表はあくまでも予測であり、実際には、それ以上の津波が到達する可能性があることが実証された形となりました。まずは、自分の身は自分で守るということを一番に、避難行動を取ることが大切だと改めて感じました。

東日本大震災から5年以上が経過し、日常生活を送る中で、震災当時の記憶が薄れつつあるかと思いますが、このような地震・津波をきっかけに、改めて避難時の対応方法や季節によって変わる避難準備品の内容など、見直してみてもはいかがでしょうか。

熊本地震支援金、東日本大震災に対する募金の受付は、現在も、引き続き行っております。

今後とも、多くの皆さまのご支援・ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、sdsckoho@gmail.comまでメールをお送りください。次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただけますようお願いいたします。